

2010年11月4日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

## 神奈川イグレンニュース〈第213号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX 045-228-7321 <http://www.kanagawa-igren.com>

### (目次)

#### ① 「新会員活動報告」

～コロナ禍の中で苦しみ・考え・そしてつかみつつあるもの～

aspen grove 代表 福本ミカ (ページ2)

#### ② 「第80回アジアビジネス探索セミナーのご案内」 (ページ5)

アジアビジネス探索者 増田 辰弘

#### ③ 社長さんへの手紙

「ネット情報が最新とは限りません」 (ページ7)

中小企業診断士 加藤 文男

#### ④ 第3回「コロナ禍懇談会」～ (ページ8)

元静岡理工科大学物質生命工学科教授 惣田 昱夫

## ～コロナ禍の中で苦しみ・考え・そしてつかみつつあるもの～

aspen grove 代表 福本ミカ

今年の4月6日に念願だったワークショップスペースと工房のあるお店を横浜にオープンしました。しかしその2日後の4月8日には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、私たちも営業を自粛せざるを得なくなりました。今まで20年近くモノづくりワークショップのインストラクターとして活動が続けてきた中で、ようやく拠点となる場所が持てると意気込んでいたところ、まさに青天の霹靂でした。

自粛の初期は落ち込みと焦りに苦しみました。

準備をしていたオープニングパーティや、自治体や商業施設、企業様から依頼される出張ワークショップが全てキャンセル！しばらくは焦るばかりで空回っていました。

1ヶ月ほど過ぎた頃、知り合いの経営者や今まで支えてくださった友人、職人の方々とお話しをする機会が増え、会話の中で一つの転機を迎えました。自分がなぜこの仕事を続けてきたのか、今後何をしたいのか、何を伝えたいのか、どうなりたいのか、誰のために働くのか。起業スクールの基礎で学ぶようなことですが、自粛期間は時間だけはたっぷりあったため、ノートにたくさん書き出すことができました。

今までは、お客さまからのニーズを探し、少しでもご希望を叶えられるようなワークショップメニューや商品を提供できるよう努力してきました。それがいつしか「便利屋さん」や「何でも屋さん」になってしまっており、動けば動くほど忙しさと比例して自分が何屋なのかわからない状態になっていました。これもこのコロナ禍で立ちどまることが無ければいつまでも気が付かなかったと思います。

たくさん書き出したノートを見返すと、一見何も関係なさそうな言葉から共通点が見つかりました。まとめてみると、木工所の職人に囲まれて育ってきたため、物心がついたときからモノづくりが当たり前のように身近にあったこと。職人のこだわりに対するかつこ良さ。それに対する世間の評価の低さ。素材や道具の奥深さ。商品開発からリリースまでのドキドキわくわくストーリー。自分で作ったり、使い手のことを思い丁寧に作られたものは愛しく大切に使いたくなること。

私が今までモノづくりワークショップのインストラクターを続けることができたのも、モノづくり体験を通じ、私が知っているこれらの楽しさや素晴らしさをお客さまへ伝えたい！という思いがあったからだと思います。しかし、問題はここからです。今までのワークショップメニューや商品を、素材や工程から全て見直し改善をしていきます。今まであったものを切り捨てることは、とても勇気が必要でした。恐怖で寝られない日も続きました。実際、今までのクライアント様からは「融通が利かなくなった」「もうお前に仕事は出さない」などキツイお言葉を頂くこともあります。でも今は「端材や廃材、技術を提供してくださる職人の皆さんへ、私がワークショップを行なうことでしっかり利益を還元する」「お客さまには様々な視点からモノづくりを楽しみ、モノづくりや素材、技術に関心を持っていただく」「支えてくれるスタッフたちが誇りをもって働けるような環境を作り上げる」というシンプルで強いルールができたため、前へ進むことができました。

実際どんな行動をしたのかというと、小田原・箱根の木工組合に所属し職人さんとの繋がりを深めたり、県内産の間伐材や小田原漆器、寄木細工の端材を積極的に使用、ワークショップで使用する道具をよりお客さまが使いやすいよう改善などなど。他にもストーリーあふれる金属加工や硝子の端材・廃材も、みんなこれからアクセサリーやインテリア雑貨に生まれ変わるのを待っています。

オーダーで作る商品は既成の箱ではサイズが合わず、使い勝手や見栄えが悪く困っていたところ、イグレン海老名サロンを紹介してくださった尾下紙業株式会社の尾下社長さんが手を差し伸べてくださいました。ピッタリサイズの箱のおかげで商品価値もグッと上がりました。コロナ対策としてワークショップ時にテーブルに置く仕切りも、テーブルサイズに合わせて発注させていただきました。こういった繋がりがあったのも本当にありがたいことでした。

おかげで再び出張ワークショップやイベントもオファーが入るようになり、9月から動き出しました。それも嬉しいことに「自粛後初のイベントは是非あなたに依頼したい」というお言葉までいただきました。

コロナ禍で一度は完全に収入が0になってしまいましたが、今思えば立ちどまることができ、振り返ってみると自分のためには決してこの期間は無駄ではなかったと思います。まだまだ見直しは終わっておらず、来年春頃まではかかりそうですが、もう迷いはありません。これからは今までより少しわがままで、少し図々しく、目的に向かって歩んでいこうと思います。

## 【作 品】



【ワークショップ風景 1】



【ワークショップ風景 2】



## － 第80回アジアビジネス探索セミナーのご案内 2020/11/20

---

激変するアジアを追いかけてみませんか

アジアを活用した新しい企業、日本人の生き方を探る

### 1 国家資本主義下の深圳、東莞のハイテク企業の現況

－ 日本企業は この不可思議な超大国をどう理解すべきなのか －

清話会 取締役事業部長

佐々木 俊弥

日中友好協会東京都日中副理事長

秋澤 文芳

### 2 中国は今なぜ世界を敵にして強引な政策を押し進めるのか

－ 中国の内側から見ると違う景色が見えて来る －

中国ビジネスコンサルタント

日置 正

● アジアビジネス探索セミナー

発行人 増田 辰弘

---

毎月のようにアジアに出かけておりますと、気が着くのは変化が大変大きなアジア経済です。新しいビジネスの流れをゲストを招いたかたちで探索する「アジアビジネス探索セミナー」を企画いたしました。ご興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

3 会費 3,000円（当日、受付でお支払いください。）

※ お申し込み/お問い合わせ先

氏名とさしつかえなければ、所属先、部署・役職、ご連絡先を明記の上、

メールあるいはFAXで事務局までお申込ください。事前の申込をお願いいたします。

※ ◇◇11/20

(金)18:00～ 「アジアビジネス探索セミナー」参加申込書

氏名：

会社名：

部署/役職：

TEL：e-mail：

※ 送付先・ アジアビジネス探索セミナー事務局

090-4124-2496

FAX03(3659)7077

e-mail. [i-daruma@igarashireport.com](mailto:i-daruma@igarashireport.com)

◆メール配信について

このセミナーはアジアビジネス探索セミナー開催実行委員会が主催しています。

◆今後のアジアビジネス探索セミナーのメール配信をご希望なされない方は、お手数でも下記アドレスまで、配信を停止するアドレスをご記入の上、ご連絡ください。速やかに配信を停止いたします。

第81回1月22日(金)、第82回3月26日(金)、第83回5月21日(金)、第84回7月23日(金)、第85回9月17日(金)、第86回11月19日(金)、第87回1月21日(金)



## 社長さんへの手紙「ネット情報が最新とは限りません」

中小企業診断士 加藤文男

先日社長さんは、「いまはネットで検索すれば情報が入手できて便利になった」「展示会へ人材を派遣しなくてもネット情報を利用して無料で入手できる」と話をしておられました。確かに必要な知識の多くはネットで調べることができます。しかし、ネットに掲載された内容には限界があります。またネットには、間違った情報が記載されているわけではありませんがすべてを開示されているわけではありません。ある一部の条件の下では正しいのですが説明が十分されていないことがあります。表面的なことだけでその裏にあるノウハウは隠されているのです。

最近毎月のように製品や技術に関する展示会が開催されています。昔と異なり、展示製品の掲示にも注意が払われるようになりました。製品に隠された重要なノウハウは、展示パネルには開示しないように注意しています。展示会で説明することにより、結論が分かればその裏にある技術が盗用され、真似されることが多くなったからです。また特許を取得しても安心できません。内容が開示されれば、それを上手に逃げる方法を考え出して同じレベルの代替品を作ることができるのです。

技術情報や新製品開発内容でなくても、工法や改善策でも同じです。ご存知のように新しい技術や工法の開発、改善にはそれなりの経費（コスト）が掛かっているのです。開発担当者は全員それを自覚しなければなりません。最近では極非常のモエレの防止のために逆に特許申請をしない方針に変更した企業もあります。ある程度技術レベルの高い企業では、それなりの調査や研究開発を行っており、できるという結論が分かればすぐに真似ができるレベルにあるのです。それどころか簡単に追いつかれてしまいます。可能性があると言う情報により、担当者のモチベーションが上がり、同様な成果を得てしまうのです。

展示会に出店する技術内容は、すべてが最新技術を表してはいません。本当に価値の高い新製品情報や技術情報は、本当に販売して使用してほしい、信頼関係のある会社に最初に提供するのが普通です。そうでないと本当の信頼関係は得られないからです。また、その方がたくさん販売できることが分かっているからです。主要な会社へ情報を提供し、ある程度めどが立てば、展示会への出展そして、ネットでの提供という順番でしょう。

社長さん！ネットは便利になりましたが本当に新しい、貴重な価値のある情報は、企業の開発担当者が所有しています。それにはまず当方からこれから先に必要とする技術情報（ニーズ）を提供しなくてはなりません。展示する会社が力を入れていれば、展示会での発表の仕方にもそれにふさわしい工夫がなされています。ノウハウに確立には、隠された努力や労力が相当かかっているのです。新しく価値のある技術はぜひ展示会で開発担当者に確かめていただきたいものです。最新情報は、開発担当者から直接入手できるようにしておきましょう。ネット情報は最新とは限らないのです。

# 第3回 コロナ禍を考える懇談会 ～人間とウイルスの共生～

講師 惣田昱夫氏  
元静岡理工科大学物質生命工学科教授

環境破壊が新しい感染症を生む・人間の遺伝子の中にウイルスの遺伝子はあるの？  
・苦い感染症の歴史（スペイン風邪・SARS-COV・MARS-COV）

日時	12月8日(火) 13時30分～15時30分
参加費	500円
募集人数	毎回先着10名(毎回募集)
会場	神奈川中小企業センター7F ソファ

## ■今後の予定

④	2021年 1月12日(火)	新型コロナ対策と予防。どうしたら感染症が収まるのか。 3密とマスク、ソーシャルディスタンス(社会的距離)、空調対策に大切なこと。
⑤	2月9日(火)	現状の感染症対策の課題と今後の対策。 コロナなどの感染症対策はどうあるべきか？ 経済発展につながる？
⑥	3月9日(火)	世界の感染症対策と日本の政府・企業のありかた。国際協力。

主催 神奈川県異業種連携協議会（イグレン）

お問い合わせ・お申し込み先 045-228-7331（TEL&FAX）（今回は11月10日分）

(お名前)	(お電話)
-------	-------